
日本民間放送連盟賞 中部・北陸地区審査会
『メ～テレドキュメント 奪還 「英雄」の妻 佐々木敦子の70年』
教養部門にて1位選出！

平成27年日本民間放送連盟賞 テレビ部門 中部・北陸地区審査会「教養部門」におきまして、メ～テレが制作した『メ～テレドキュメント 奪還 「英雄」の妻 佐々木敦子の70年』が1位に選ばれました。この作品は今年8月に行われる連盟賞の中央審査会に出品されます。

このほか、「報道部門」では『メ～テレドキュメント レベル1～御嶽山・届かなかった警告～』が2位に選ばれ、審査員特別賞を受賞しました。

日本民間放送連盟賞 中部・北陸地区審査会「教養部門」【1位】

『メ～テレドキュメント 奪還 「英雄」の妻 佐々木敦子の70年』

放送:平成27年5月25日(月)2時14分～3時19分

【内容】

東西冷戦の時代、断絶していた中国とアメリカが手を取り合うきっかけとなった、いわゆる「ピンポン外交」の立役者、莊則棟(そうそくどう)。卓球の世界選手権を3連覇し、建国間もない中国に夢と希望をもたらした彼を、中国の人々は「民族の英雄」と讃えた。

その莊とこの時名古屋で出会い、後に妻となったのが佐々木敦子さん。莊は後にスポーツ大臣にまでなっていたが、中国は指導者の毛沢東が亡くなり、それまで権力を握っていた「四人組」が失脚。莊は「四人組の協力者」とみなされ4年間監禁され、その後地方へ追放された。

敦子さんは莊の境遇を知り、北京で莊と再会した。そして莊を何とか救おうとしていつしか2人は恋に落ちた。しかし、中国政府は2人の結婚を認めなかった。

大きな犠牲を払い結婚した2人。20年以上幸せな日々が続いたが、2013年に莊がガンで亡くなった。そして、中国当局はかつての「英雄」の葬儀を禁ずると告げてきた。敦子さんの抗議で葬儀は行なわれたが、「英雄」の葬儀は非公開となった。敦子さんは今、北京のマンションを引き払い、中国を行き来しながら日本で暮らす。英雄とその妻の波乱万丈の人生。その闘いの人生を辿った。

【審査員講評】

- ・佐々木敦子さんを通じて中国の近代史がよく理解でき、彼女の思いが伝わってきた。
- ・個人と国家という重いテーマであり、ともすれば感情的になりがちのところ、敦子さんの人柄もあり、やわらかく描かれていた。今後も忘れられない作品になった。
- ・莊氏が追放された事実は知っていたが、その裏にこのようなドラマがあったことを初めて知った。強い心を持った敦子さんの姿に感動した。

以上